７　総合問題（精算表）

（１）出題形式

第５問で精算表の作成問題が出題されることがあります。

決算整理前の残高が答案用紙に記入されており、問題文に与えられた決算整理事項を処理して精算表を作成する問題です。

（２）出題論点

精算表は、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを進めますので、決算整理が出題されます。

下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないようにしっかり復習して下さい。

①　期末商品（売上原価の算定）[４－１]

②　貸倒引当金の設定［13－２］

③　減価償却［８－２］

④　現金過不足の整理［12－２］

⑤　引出金勘定の整理［14－２］

試験対策問題７－１　**精算表を作成しなさい。なお、期末商品は800円である。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700							
仕　　入	2,000							

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　　入	**700**	**繰越商品**	**700**
繰越商品	**800**	**仕　　入**	**800**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	700		**800**	**700**			**800**	
仕　　入	2,000		**700**	**800**	**1,900**			

試験対策問題７－２　**精算表を作成しなさい。なお、売掛金残高の２％と見積もり、貸倒引当金を設定する。**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売掛金	8,000							
貸倒引当金		100						
貸倒引当金繰入								

必要な決算整理仕訳を考え、精算表に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	**60**	**貸倒引当金**	**60**

貸倒引当金繰入：8,000×２％－前T/B 貸倒引当金100＝60

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売掛金	8,000						**8,000**	
貸倒引当金		100		**60**				**160**
貸倒引当金繰入			**60**		**60**			

試験対策問題７－３　**当期首に取得した建物（取得原価108,000円、残存価額ゼロ、耐用年数30年、定額法）について、減価償却を行う。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
減価償却費	**3,600**	**建物**	**3,600**

減価償却費：取得原価108,000÷耐用年数30年＝3,600

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
建物	108,000			**3,600**			**104,400**	
減価償却費			**3,600**		**3,600**			

試験対策問題７－４　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

精　算　表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金過不足	200			**200**				
雑損	500		**200**		**700**			

試験対策問題７－５　**決算において、引出金500円を整理する。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金	**500**	**引出金**	**500**

精算表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
資本金		100,000	**500**					99,500
引出金	500			**500**				

8　総合問題（P/L・B/S作成）

第５問で、損益計算書か貸借対照表の作成問題が出題されることがあります。損益計算書か貸借対照表のどちらか一方が問われており、両方問われる出題可能性は低いです。

出題形式としては、**決算整理前の元帳残高**が与えられていますので、精算表と同様に、**決算整理前残高試算表 → 決算整理 → 損益計算書・貸借対照表**と手続きを行いますので、決算整理仕訳を行い、それを加味して、損益計算書と貸借対照表を作成します。

損益計算書と貸借対照表を作成する場合には、以下に注意して下さい。

① 「仕入」勘定は、**売上原価**として表示します。

② 「繰越商品」勘定は、**商品**として表示します。

③ 「貸倒引当金」勘定は、原則として、売掛金や受取手形などの対象債権から控除する形式で表示します。したがって、貸方ではなく、借方に表示します。

④ 損益計算書で算定した当期純利益は、貸借対照表の貸方に当期純利益として表示します。

また、決算整理としては精算表と同様に下記の論点が頻出ですので、苦手な論点がないようにしっかり復習して下さい。

① 期末商品（売上原価の算定）［４－１］

② 貸倒引当金の設定［13－２］

③ 減価償却［８－２］

④ 現金過不足の整理［12－２］

⑤ 引出金勘定の整理［14－２］

試験対策問題８－１　**次の決算整理前残高試算表にもとづいて、損益計算書を作成しなさい。期末商品は800円であり、備品の減価償却費100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
200	現　　　　金	
700	繰　越　商　品	
1,000	備　　　　品	
	資　本　金	1,300
	売　　　　上	3,200
2,000	仕　　　　入	
600	給　　　　料	
4,500		4,500

・解説

問題では損益計算書しか問われていませんが、決算整理仕訳を行うと良いでしょう。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**700**	**繰　越　商　品**	**700**
繰　越　商　品	**800**	**仕　　　　入**	**800**
減　価　償　却　費	**100**	**備　　　　品**	**100**

・解答

収益と費用の勘定科目について、決算整理仕訳を加味して、解答して下さい。

損　益　計　算　書

費　　用	金　　額	収　　益	金　　額
売　上　原　価	1,900	売　上　高	3,200
給　　　　料	600		
減　価　償　却　費	100		
当　期　純　利　益	600		
	3,200		3,200

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700−800＝1,900

試験対策問題８－２　**次の決算整理前残高試算表にもとづいて、貸借対照表を作成しなさい。期末商品は800円であり、備品の減価償却費100円を計上する。**

決算整理前残高試算表

借　　方	勘 定 科 目	貸　　方
200	現　　　　金	
700	繰　越　商　品	
1,000	備　　　　品	
	資　　本　　金	1,300
	売　　　　上	3,200
2,000	仕　　　　入	
600	給　　　　料	
4,500		4,500

・解説

問題では貸借対照表しか問われていませんが、決算整理仕訳を行うと良いでしょう。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**700**	**繰　越　商　品**	**700**
繰　越　商　品	**800**	**仕　　　　入**	**800**
減　価　償　却　費	**100**	**備　　　　品**	**100**

・解答

資産、負債及び純資産の勘定科目について、決算整理仕訳を加味して、解答して下さい。ただし、当期純利益を算定する必要がありますので、注意して下さい。

貸　借　対　照　表

資　　産	金　　額	負債・純資産	金　　額
現　　　　金	200	資　　本　　金	1,300
商　　　　品	800	当　期　純　利　益	600
備　　　　品	900		
	1,900		1,900

当期純利益：収益3,200－費用(売上原価1,900＋給料600＋減価償却費100)＝600

または、貸借差額（＝借方合計1,900－資本金1,300）

売上原価：前T/B 仕入2,000＋700－800＝1,900

9　帳簿の記入

帳簿作成問題は主に第２問で出題されます。仕訳帳の記入及び総勘定元帳への転記、さらに、関連する補助簿への記入が問われます。帳簿作成問題は時間がかかりますので、ほかの問題を解いた後、最後に取り掛かることをお勧めします。

必要な仕訳を行い、それを各勘定に記入して解答します。特に、摘要欄の記入に注意して下さい。

試験対策問題９－１　**近畿商店（個人商店）の下記の［取引］について、**

(1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の当座預金勘定と買掛金勘定に転記しなさい。

(2) 仕入帳と買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、ⅰ　商品に関する勘定は３分法によること。

ⅱ　仕訳帳の小書きは省略する。

ⅲ　元丁欄は､当座預金勘定と買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

［取引］

１月３日　京都商店に対する買掛金の一部10,000円を約束手形＃３を振り出して支払った。

７日　滋賀商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A商品　100個　@150円　15,000円

B商品　300個　@200円　60,000円

８日　滋賀商店から仕入れた上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

B商品　10個　@200円　2,000円

14日　和歌山商店に次の商品を売り渡し、代金のうち20,000円は同店振り出しの小切手＃５で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。なお、残額は掛けとした。

A商品　150個　@230円　34,500円

24日　京都商店から次の商品を仕入れ、代金のうち30,000円は小切手＃９を振り出して支払い、残高は掛けとした。

C商品　400個　@120円　48,000円

［答案用紙］

仕　訳　帳

1

日付		摘　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	前 期 繰 越 高	✓	3,000,000	3,000,000

総 勘 定 元 帳

当 座 預 金　　2

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
1	1	前 期 繰 越	✓	230,000					

買　掛　金　　8

日付		摘　要	仕丁	借　方	日付		摘　要	仕丁	貸　方
					1	1	前 期 繰 越	✓	99,000

仕　入　帳　　1

日　付		摘　要	内　訳	金　額

買掛金元帳

京都商店　1

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		33,000	貸	33,000

滋賀商店　2

日付		摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		66,000	貸	66,000

・解答及び解説

取引ごとに、仕訳を行い、関連する帳簿（総勘定元帳、仕入帳、買掛金元帳）への記入を行うことが効率的でしょう。

例えば、１月３日の取引を考えると、①仕訳を行い、②買掛金勘定へ転記し、③買掛金元帳（京都商店）の記入を行う、といった流れで処理して下さい。

また、試験時間が足りない場合には、仕訳帳だけすべて記入するなども一つの戦略です。

仕　訳　帳

1

日付		摘要		元丁	借方	貸方
1	1	前期繰越高		✓	3,000,000	3,000,000
	3	(買掛金)		8	10,000	
			(支払手形)			10,000
	7	(仕入)			75,000	
			(買掛金)	8		75,000
	8	(買掛金)		8	2,000	
			(仕入)			2,000
	14	諸口	(売上)			34,500
		(当座預金)		2	20,000	
		(売掛金)			14,500	
	24	(仕入)	諸口		48,000	
			(当座預金)	2		30,000
			(買掛金)	8		18,000

総勘定元帳

当座預金　2

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
1	1	前期繰越	✓	230,000	1	24	仕入	1	30,000
	14	売上	1	20,000					

買掛金　8

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
1	3	支払手形	1	10,000	1	1	前期繰越	✓	99,000
	8	仕入	1	2,000		7	仕入	1	75,000
						24	仕入	1	18,000

仕入帳

1

日付		摘要	内訳	金額
1	7	滋賀商店　掛け		
		A商品　100個　@150	15,000	
		B商品　300個　@200	60,000	75,000
	8	滋賀商店　掛け返品		
		B商品　10個　@200		2,000
	24	京都商店　小切手・掛け		
		C商品　400個　@120		48,000
	31	総仕入高		123,000
		仕入返品高		2,000
		純仕入高		121,000

買掛金元帳

京都商店　　1

日	付	摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		33,000	貸	33,000
	3	支払い	10,000		〃	23,000
	24	掛け仕入		18,000	〃	41,000
	31	次月繰越	41,000			
			51,000	51,000		

滋賀商店　　2

日	付	摘要	借方	貸方	借または貸	残高
1	1	前月繰越		66,000	貸	66,000
	7	掛け仕入		75,000	〃	141,000
	8	返品	2,000		〃	139,000
	31	次月繰越	139,000			
			141,000	141,000		

資料　出題される収益・費用の勘定一覧

（１）全商簿記３級で出題される主な収益

売 上 高 （ 売 上 ）　…　［４－１］参照
受　取　手　数　料　…　取引を仲介したことによって生じる収益
受　　取　　家　　賃　…　建物を貸したことによって生じる収益
受　　取　　地　　代　…　土地を貸したことによって生じる収益
受　　取　　利　　息　…　［11－３］参照
雑　　　　　　　　益　…　少額の収益
有 価 証 券 売 却 益　…　［７－２］参照
固 定 資 産 売 却 益　…　［８－４］参照

（２）全商簿記３級で出題される主な費用

売上原価（仕入）　…　［４－１］参照
給　料　…　従業員の労働の対価として支払う費用
広告料　…　広告宣伝のための費用
旅　費　…　出張などで生じた交通費
交通費　…　電車代、バス代、タクシー代、飛行機代などの費用
通信費　…　切手代、はがき代、電話代などの費用
消耗品費　…　固定資産に計上しない程度の金額の物品、または、使用可能期間が１年以内のもの
水道光熱費　…　水道代、電気代、ガス代などの費用
支払手数料　…　取引を仲介してもらったことによって生じる費用
支払家賃　…　建物を借りることによって生じる費用
支払地代　…　土地を借りることによって生じる費用
保険料　…　保険料の支払
発送費　…　商品を送付することによって生じる費用
租税公課　…　［11－１］参照
減価償却費　…　［８－２］参照
修繕費　…　固定資産を修繕することによって生じた費用
貸倒損失　…　［13－１］参照
貸倒引当金繰入　…　［13－２］参照
雑　費　…　お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目
支払利息　…　［11－３］参照
手形売却損　…　［６－３］参照
雑　損　…　少額の損失
有価証券売却損　…　［７－２］参照
固定資産売却損　…　［８－４］参照